

平成 15 年度の科学技術振興調整費の基本的考え方等について

平成 15 年 1 月 28 日

1. 科学技術振興調整費の役割

各府省の施策の先鞭となるもの等で、政策誘導効果が高い施策に活用、特に科学技術システム改革に寄与する施策を重視

優れた成果の創出・活用のための科学技術システム改革

例えば、改革先行型の研究拠点整備（戦略的研究拠点育成）

将来性が見込まれる分野・領域への戦略的対応等

例えば、バイオインフォマティクス、基盤的ソフトウェア、知的財産などの分野における戦略的人材養成（新興分野人材養成）

科学技術活動の国際化の推進

例えば、我が国が国際的リーダーシップを発揮できる科学技術課題の国際的な調査研究等（我が国の国際的リーダーシップの確保）

2. 「平成 15 年度の科学技術振興調整費の配分の基本的考え方」(案)

- (1) 必要な継続分の実施（約 300 億円）に加え、前年度プログラムに以下の施策を新設・拡充することとし、速やかに文部科学省が公募を行い、早期実施に努める（新規選定分 77 億円）（別添及び資料 3 - 2 参照）

「科学技術振興に関する基盤的調査」（新規）

現行科学技術基本計画後の新たな科学技術政策の方向性を検討するための調査研究を新設。

「新興分野人材養成」（拡充）

ライフサイエンス分野を中心とする融合領域や自然科学と人文・社会科学との融合領域について拡充。

「我が国の国際的リーダーシップの確保」（拡充）

政府間合意等に基づく重要課題への機動的な対応について拡充。

- (2) 文部科学省において、科学技術振興調整費で実施した研究課題の中間・事後評価を実施し、この結果も 15 年度の配分に反映（評価対象課題は 84 課題。中間評価課題のうち 2 課題については研究中止）。

3. 今後の取組

- (1) プログラム内で重視すべき分野、領域等を考慮した概算等を示すため、「平成 15 年度の科学技術振興調整費の配分方針」を作成。
- (2) 平成 16 年度概算要求に向けて、平成 13 年度開始プログラムの中間評価及び科学技術振興調整費の更なる効果的・効率的活用を図るための方策について検討。

平成15年度科学技術振興調整費予算案

(単位：億円)

プログラム名	15年度 予算案	うち15年度 新規選定分
15年度新規プログラム <u>科学技術振興に関する基盤的調査</u> <u>科学技術の現状に関する調査</u> <u>社会・経済ニーズを踏まえた今後の技術発展予測</u> <u>科学技術マネジメントの在り方に関する調査研究</u>	3	3
15年度に継続して実施するプログラム		
(1) 産学官共同研究の効果的な推進	43	15
(2) 戦略的研究拠点育成	60	20
(3) 若手任期付研究員支援	18	3
(4) 科学技術政策提言	3	1
(5) 先導的研究等の推進	80	20
(6) 新興分野人材養成	32.1	13
ライフサイエンス分野を中心とする融合領域 (含む <u>ナノテクノロジーとライフサイエンス</u> <u>の融合領域</u> <u>ライフサイエンス分野における計測・解</u> <u>析のための機器・手法の研究開発及び利用</u> 基盤的ソフトウェア 知的財産 (含む <u>バイオテクノロジーに重点を置くもの</u>)		
<u>自然科学と人文・社会科学との融合領域</u>		
(7) 国際的リーダーシップの確保	7	2
我が国の科学技術活動の国際的リーダーシップの 確保 <u>政府間合意に基づく重要課題協力の機動的推進</u>		
経過措置	126	-
12年度以前に採択された課題のうち、継続分		
評価の実施・成果の普及 プログラム・オフィサーの設置等	4.9	-
合 計	377	77

下線部は15年度に新たに追加されたプログラム等